



会社プロフィール

【代表】和泉 文夫

【事業内容】スリッパ製造業

【所在地】南河原 580-1

丸辰商店

南河原スリッパの伝統を次世代に①

昭和38年の創業以来62年の歴史に幕を下ろし、今月12月末でスリッパ製造業に終止符を打つことを決めた丸辰商店。今月は南河原の伝統産業、スリッパ産業を長年牽引してきた同商店を紹介します。

同商店代表の和泉文夫さんは昭和54年に急逝した先代の後を引き継ぎ、スリッパ製造業を始めました。最盛期には、地区内に40軒近くの業者がおり、昭和55(1980)年ごろに南河原スリッパは生産量日本一、全国の生産量の7割を占めるほどに成長しました。

「私のモノづくりは直接消費者に販売するものではないため、問屋さんなどから情報収集を欠かさず、その声をスリッパ作りに生かしてきた」と語る和泉さん。わずか7人程の少ない職人で消費者のニーズに応える製品を作り続けてきました。しかし、時代の流れとともにスリッパ産業は安価な海外製品の登場に押され、徐々に衰退していきます。

こうした中、平成29(2017)年に南河原スリッパの伝統を後世に残すため、「南河原スリッパプロジェクト」が立ち上がり、これまでにはなかった新たなデザインのスリッパが登場。和泉さんはそ

の商品開発に携わる中で「左右違っ柄のスリッパを自分が好きなように選んで履くなど、従来のスリッパにはないアイデアを受け入れることも必要」とこれまでの意識を変えることの必要性を語ります。地場産業の復興に積極的に参加してきた丸辰商店ですが、後継者がいないことなども背景に廃業することを決めました。その一方で、同商店の技術や地域産業の伝統を守り、次世代につなげようとする熱い想いを持った人もいます。

南河原スリッパの伝統や技術がなくなりることを決意。和泉さんは「引き継いでもうことは感謝しているが、課題も多い。それを乗り越えて次のステップに進んでもらいたい」とその思いを語ってくれました。丸辰商店を含めてもわずか4軒となつた事業者の中で新たな力が伝統を引き継いでいきます。

市報ぎょうだ令和8年2月号では丸辰商店の後を引き継ぎ、スリッパ産業を次世代へつなげる株式会社オンドザインを紹介します。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

俳行 壇田

俳句応募方法

老松のどっしりとある良夜かな

句評 良夜とは十五夜、十三夜の満月のことである。秋の澄み渡る空から大きな桐の葉が一枚ふわりと落ちてくる様は優雅で風情がある。瞬の自然の宮みを捉えた一句で俳句の本道である自然詠の佳句といえる。近年の俳句界では観写生という伝統がやや軽んじられているようで寂しい思いもあるが、これも時代の流れなのかもしれない。

下見事な枝ぶりを誇っている光景は実に感動的である。研ぎ澄まされた静寂の中で老松の生命感が浮き彫りとなる一句である。長く舞踏の世界で培ってきた感性の成せる業といえるだろう。ちなみに今年の十五夜は10月、十三夜は11月でいつになく遅いものであった。

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末必着 なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

一葉落つ青き虚空は音も無く

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがするだろう。人間は本来弱い生き物である。こうした精神修養を積むことで生きていく上では大事なことなのかもしれない。緊張感のある一句である。

門井町 小倉 繁二

老松のどっしりとある良夜かな

句評 良夜とは十五夜、十三夜の満月のことである。秋の澄み渡る空から大きな桐の葉が一枚ふわりと落ちてくる様は優雅で風情がある。瞬の自然の宮みを捉えた一句で俳句の本道である自然詠の佳句といえる。近年の俳句界では観写生という伝統がやや軽んじられているようで寂しい思いもあるが、これも時代の流れなのかもしれない。

下見事な枝ぶりを誇っている光景は実に感動的である。研ぎ澄まされた静寂の中で老松の生命感が浮き彫りとなる一句である。長く舞踏の世界で培ってきた感性の成せる業といえるだろう。ちなみに今年の十五夜は10月、十三夜は11月でいつになく遅いものであった。

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末必着 なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

鶴雲広き世間を亀歩む
野仏の空を自在に赤とんぼ
古墳今一山として冬に入る
一輪のばら一陣の風と和す
ものの影畠に伸びて冬近し
たっぷりの柚子と戯る一人風呂
空き缶を弄ぶ風冬隣

渡柳 大西 道子

老松のどっしりとある良夜かな

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがするだろう。人間は本来弱い生き物である。こうした精神修養を積むことで生きていく上では大事なことなのかもしれない。緊張感のある一句である。

門井町 宮田 淑尚
長野 牧 努

老松のどっしりとある良夜かな

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがするだろう。人間は本来弱い生き物である。こうした精神修養を積むことで生きていく上では大事なことなのかもしれない。緊張感のある一句である。

佐間 西岡 備中

老松のどっしりとある良夜かな

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがするだろう。人間は本来弱い生き物である。こうした精神修養を積むことで生きていく上では大事なことなのかもしれない。緊張感のある一句である。

渡柳 大西 道子
門井町 宮田 淑尚
長野 牧 努
佐間 西岡 備中

老松のどっしりとある良夜かな

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがするだろう。人間は本来弱い生き物である。こうした精神修養を積むことで生きていく上では大事なことなのかもしれない。緊張感のある一句である。

佐間 西岡 備中

老松のどっしりとある良夜かな

句評 警策とは禅寺で坐禅を組む時、瞑想や悟りを払うために打つ四尺ほどの扁平な板のことである。坐禅を組み瞑想にふける中、時折しつと警策の音が響く。澄んだ堂内では思わず身の引き締まる思いがする